

事例紹介

緊急雇用創出事業

【農林漁業分野】

県内各地の海を潜る仕事をして35年になります。
一般の人があまりみることができない、「海底の世界」が私たちの仕事場です。

今回の取組によって得られるデータにより、一般の方々に青森県の海を深く理解していただくきっかけにしていければ幸いです。



潜水調査会社 代表
今 さん

事業概要

陸奥湾の藻場・水産動物や底質環境の10年間の変化について比較を行う。

委託先

潜水調査会社

新たな
雇用創出数

12人
(9月末日時点)

事業費

約2,089万円(平成21年度)

事業の開始

平成21年7月～

青森県



地域雇用失業情勢
(事業開始時点の有効求人倍率)

青森県 0.27倍(季節調整値)

業務内容

陸奥湾沿岸に500m間隔で計406調査線(平成21年度は、平舘から野辺地に至る陸奥湾沿岸の231調査線)を設け、各調査上にある水深1m, 2.5m, 5m, 10m地点に潜水し、それぞれの地点で海底の状況を写真に撮影し、底質のサンプルと植物と動物を採取する。

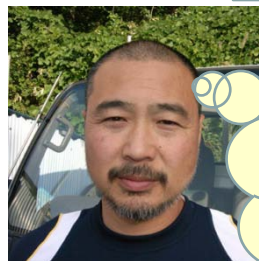
生物の現存量、底質のよごれや潮流の指標となる強熱減量や粒度を調べ、10年前に同様に実施した結果と比較できるよう、各種データを整理する。



《潜水作業は安全第一！》

新規雇用者の
みなさん

生き物を扱う仕事にやりがい
を感じています。



潜水士の
花田さん

この仕事を通じて、小さい頃から親しんできた大切な海を、子供たちへ残していくお手伝いできればと思います。

事業の効果

これらの比較結果を検討することにより、水産動植物の資源管理方策のための基礎的データとするだけでなく、漁業者による藻場の保全活動を活発化させることが期待できます。さらには小学生等に対する環境学習を通じ、本県の海に関わる産業への興味を高めることが可能となります。

今後の課題

平成22年度はむつ市等の残りの調査線を調査し、陸奥湾の全体の状態を把握します。



アマモ場に住むメバルの稚魚



マナマコ(生態写真)



アミジサ(標本写真)



ホンダワラ場で調査する
花田潜水士

《陸奥湾の生き物たち》



森岳じゅんさい摘み取り担い手育成事業【秋田県・三種町】

事例紹介

緊急雇用創出事業

【農林漁業分野】

生産量日本一！三種町のじゅんさい摘み取り風景は、初夏の風物詩として趣きのあるものですが、最近は摘み手の高齢化等により担い手が不足しています。

この風景を後世に残すため、関係者のご協力を得ながらこの事業に取り組んでいます。



森岳じゅんさい加工業者組合
石川会長

事業概要

三種町山本地区のじゅんさい沼で、じゅんさいの摘み取り実習を通じて、技術の習得や栽培方法を学び担い手の育成を図る

委託先

森岳じゅんさい加工業者組合
(三種町商工会内)

新たな
雇用創出数

16人

事業費

約1,511万円(平成21年度)

事業の開始

平成21年4月～

秋田県



地域雇用失業情勢

(事業開始時点の有効求人倍率)

秋田県 0.32倍
能代管内 0.33倍

業務内容

2人一組で8箇所に分かれ、講師の指導のもとじゅんさいの摘み取り技術を習得する

天候が悪いときは、加工所内でじゅんさいの選別方法を学ぶ(雷のときは特に注意！)

じゅんさいの歴史、生態、生産量等について学習する



《じゅんさいねがな》記:じゅんさいはないかな？

実習生の
みなさん

はじめは、船酔する実習生もいましたが、慣れてくると
余裕も伺えます



天気の良い日の摘み取り
は、まわりの景色も楽しみ
て気分爽快だよ！

先生の声

講師は加工業者の皆様
一人でも多くの実習生が摘み手として定着できますように・・・

ビシビシいくので
その辺のそこヨロシク



テレビの取材!?
聞いてないよっ



《実習初日、地元テレビ局から取材いただきました》

今後の姿と
課題

卒業生全員が「摘み手紹介名簿」にめでたく登録されました
来春からはいよいよ「とりこ」(摘み手)としてデビューします！



森岳じゅんさいの将来を担う皆さんと一緒に働くことが出来、充
実した6ヶ月でした。

じゅんさいの里では「摘み取り体験」も出来ます。是非、三種町
へお越し下さい。<http://www.town.mitane.akita.jp/>

森岳じゅんさい摘み取り担い手育成事業
事務担当者 田森ゆかり さん



《全員そろっての卒業式》

事例照会

緊急雇用創出事業 【農林漁業分野】

荒廃溪流等の美化及び防災事業

【東京都】

本事業においては、通常事業では対応できなかった溪流周辺の倒木を処理し、林道沿いの不法投棄ゴミの片付けを行う等の森林整備を進めています。これにより、森林の持つ公益的機能の回復と防災効果が期待されています。また、班長の指導の下、従事者の方々は皆さんいきいきと仕事に取り組まれています。作業は班単位となるためチームワークの体験にも役立っています。



(財)東京都農林水産振興財団
森の事業課長 三谷清さん

事業概要

山林の防災及び美化を図るため、集中豪雨による土砂流出災害等の大きな要因となっている山地溪流沿いの雪害等による倒木や被害木、林道沿いの森林に不法投棄されたゴミなどの除去作業等の森林整備を行なう。

委託先

財団法人
東京都農林水産振興財団

新たな
雇用創出数

54人

事業費

約16,729万円

事業の開始

平成21年4月～

業務内容

山地溪流沿い雪害による倒木や被害木の後片付け。

林道沿いの森林に不法投棄されたゴミ等の処理、除草。

その他森林の美化・防災に関連する森林整備事業。

東京都



地域雇用失業情勢
(事業開始時点の有効求人倍率)

東京都 0.73倍(季節調整値)



対象地域

八王子市、青梅市、あきる野市、日の出町、
奥多摩町、檜原村の多摩6市町村

実施風景

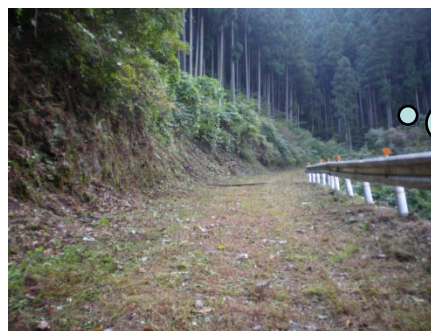
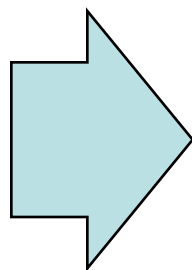


毎朝、準備体操とミーティング

排水施設のメンテナンスや路面の崩落土砂の片付けにより、森林の美化のほか災害防止にもつながります。



作業中



作業完了

これまでは限られた予算によりなかなか手が入らなかった林道もすっかりきれいになりました。地元の方々の評判も上々です。

今後の姿と課題

緊急雇用創出事業を活用し、平成21年度から平成23年度までの3年間で、多摩地域6市町村の森林を整備し、森林の美化・防災を図っていきます。

刈払機の研修も実施しました。



スクミリングガイ（ジャンボタニシ）駆除事業【岡山県：倉敷市】

事例紹介

緊急雇用創出事業 【農林漁業分野】

倉敷市内のベンチャー支援施設に入居しており、担当部署の紹介で業務に応募させていただきました。
離職をされた方に、ハローワークを通じ、駆除スタッフとして新たに16人の雇用を創出しました。
日頃のインターネット関連業務と違い、屋外での作業が中心でしたが、管理システムの運用により無事に終了しました。



合同会社
代表社員 藤原泰彦さん

事業概要

市内で急速に増殖中のスクミリングガイ（ジャンボタニシ）により、稲への被害は年々増加している。そこで、更なる繁殖に歯止めをかけるため、作業地区を巡回しながら水路の護岸に産み付けられた卵を回収・処分することにより、駆除を行う。

岡山県



委託先

合同会社ネットサービス
（本社：岡山県倉敷市）
従業員数 1人

新たな 雇用創出数

16人

地域雇用失業情勢
（事業開始時点の有効求人倍率）

岡山県管内 0.59倍（季節調整値）
倉敷中央管内 0.52倍（原数値）

事業費

約850 万円（平成21年度）

事業の開始

平成21年
4～8月

業務内容

倉敷市内の水路において、スクミリングガイの産卵状況を調査・駆除する。

市民からの駆除依頼があった場合には、該当箇所を調査・駆除する。



安全確保の為、ユニフォームは派手に

ジャンボ タニシの駆除

ジャンボタニシの卵を回収する為、専用の用具を準備し、市内を60日間巡回しました。

60日間での駆除総重量は1トン超

GPSやカメラ・携帯電話・メールを大いに活用し、リアルタイムに駆除の地点を報告することで、効率的で安全な作業と作業管理ができました。作業を通じて、ジャンボタニシが多く発生している場所や発生の時期等もわかりました。



メディアでも、度々紹介されました。

地域の方からの 反響

駆除作業中、地域の方から温かいお声を頂きました。炎天下・屋外での作業が中心の為、励みになりました。

暑い中、ご苦労さまじゃ。
ありがとうなあ。

最近、多くて困っとるんよ。
助かるわあ〜。

今後の姿と 課題

1. 成貝（親貝）の駆除・処分方法を検討・確立する。
2. 気候の変化による生態系の変化。増加・北上を防ぐ。

来年度以降の駆除作業には、効率的な駆除方法として、成貝の駆除も必要になってくると考えています。この際の回収・処分方法を確立し、気候の温暖化による発生地点の状況調査と北上の防止が必要です。

【担当：倉敷市役所農林水産課農政係長 大野 進】



《地域によっては大量発生！》



《多い時期は、1日40キロ以上》



《稲作に影響を与えることも》

事例紹介

漁場環境保全事業

【大分県中津市】

緊急雇用創出事業

【農林漁業分野】

事業概要

30年以上前、二枚貝の着底促進を目的に干潟に鋼鉄製パイプを設置しましたが、経年劣化により、干潟の環境悪化の一因となっています。このパイプの撤去作業を行い、中津沿岸海域の漁場環境改善を図りました。



大分県漁業協同組合
中津支店
運営委員長 園 利喜春 さん

瀬戸内海の豊前海域には、日本三大干潟の一つである約3,270haの干潟が形成されています。このうち、中津市の地先には約1,560haの干潟が現存し、採貝漁業やノリ養殖漁業が盛んに行われてきました。特に、「アサリ」は昭和60年、61年と全国一の水揚げを誇っていましたが、平成16年には昭和60年の0.1%までと激減しました。この原因の一つとして考えられるのが、干潟の持つ水質浄化機能の低下による干潟環境の悪化です。干潟を再生するために、干潟環境の改善、維持が喫緊の課題となっています。このような現状から、本事業は干潟環境改善の一助になったと確信しています。

委託先

大分県漁業協同組合

事業費

約1,062万円
(平成21年度)

実施期間

平成21年4月～平成21年9月

新たな 雇用創出数

25人
(平成21年度)

業務内容

経年劣化により海中で折れてしまった鋼鉄製パイプの撤去作業を行いました。

大分県

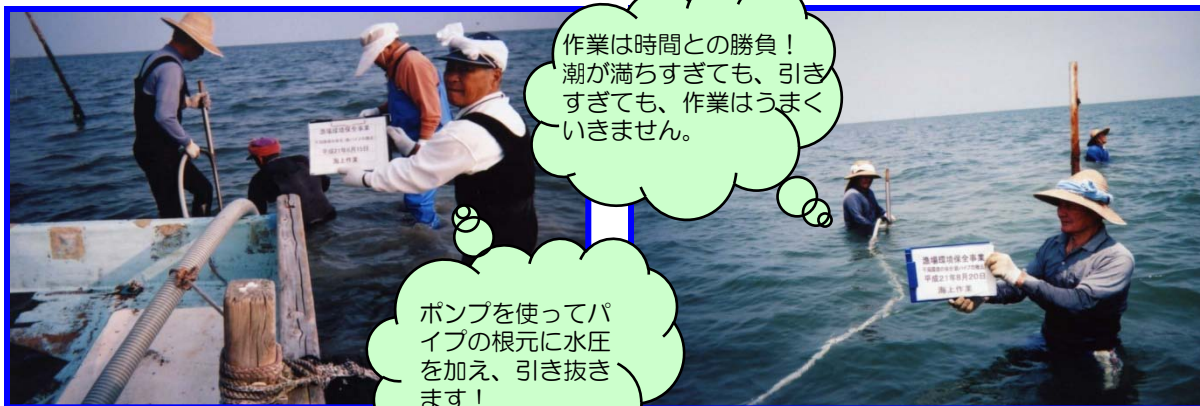


地域雇用失業情勢
(事業開始時点の有効求人倍率)

大分県 0.49倍(4月季節調整値)
中津管内 0.31倍(原数値)

事業の効果

約4,000本の鋼鉄製パイプを回収し、漁場の資源回復に寄与しました。



作業は時間との勝負！
潮が満ちすぎても、引き
すぎても、作業はうまく
いきません。

ポンプを使ってパ
イプの根元に水圧
を加え、引き抜き
ます！



きれいな
海になり
ました！

日本三大干潟の一つ、豊かな中津の干潟



なんと4,000本ものパ
イプを回収しました！

「中津干潟」は、全国的にも数少なくなっている砂泥質干潟を形成しており、多様な底成生物が生息しています。ここでは、絶滅危惧種の「スグロカモメ」が越冬し、春秋の渡りの時期には多くの「シギ」や「チドリ」がやってきます。また、生きた化石と言われる「カブトガニ」や、絶滅が心配される「アオギス」、「ナメクジウオ」などの生息地にもなっています。



生きた化石「カブトガニ」

宜野湾市大山地区田イモ畑整備事業【沖縄県宜野湾市】

事例紹介

緊急雇用創出事業 【農林漁業分野】

市としては、貴重な農水産業資源である大山地区田イモ畑の保全に努めていきます。今回の事業が、保全への取り組みの一つとして効果が得られれば、大変意義あるものと捉えています。本事業実施に際し、マスコミ各社でもたびたび取り上げられており、「大山田イモ」ブランドの周知という相乗効果もあったと考えております。



宜野湾市 市民経済部
部長 新田 宗仁さん

事業概要

宜野湾市の特産品である田イモであるが、田イモ農家の高齢化、後継者不足等の影響から、荒れた休耕地が多く見られるようになった。田イモ畑保全の一環として、17名の臨時職員を新規雇用する。

実施団体

宜野湾市直接事業
所管部署：市民経済部
農水振興課

新たな 雇用創出数

20人(延人数)

事業予算

1718.5万円(平成21年度)

事業期間

平成21年5月
～平成21年11月

沖縄県宜野湾市



地域雇用失業情勢

(事業開始時点の沖縄県内状況)

有効求人倍率 0.28倍(季節調整値)
完全失業率 7.5%(原数値)

業務内容

休耕地化している地域の雑草の剪定作業。高齢者の農地の雑草等剪定作業。農道とその近辺の環境整備。

剪定済み休耕地について、雑草が群生することを防ぐ目的と環境美化の観点から、花木の植樹を予定。

マダラ状に存在する剪定予定地域に対応するため、17名を3・4班(3名～5名)の少人数に分けて事業実施。



《「大山地区田イモ畑の景観」》

臨時職員の みなさん

高温多湿で厳しい作業環境で、体力的にはかなりの負担。生産農家・市民の皆さんの励ましが作業を後押し。



作業員
田場さん

農業は初体験であつたが、やりがいを感じた。可能なら将来的に田イモ農家をやってみたい。



作業員
與那城さん

田イモ畑は作業場所としては大変厳しい。でも農家の皆さんや市民のみなさんの励ましもあって、楽しみながら作業できた。



《作業に取り組む臨時職員の皆さん》

田イモ生産者 組合員の声

農道未整備等の状況もあり、休耕地化の要因と考えられていた。その解決の一助として期待が寄せている。

しばらく休耕地にしていたら、手につけられないほど雑草が覆い茂ってしまった。おかげで畑として再開できそうだ。

農道が整備されたことでハブ等の有害生物の危険も除去され、大変助かっている。



《剪定後のきれいになった休耕地地域》

今後の姿と 課題

環境と調和した都市型農水産業として、風情ある田イモ畑を如何にして保全していくか。



農水振興課 農水振興係長
島袋 敬 さん

農業経験の無い素人集団で、高温多湿の田イモ畑・周辺環境の整備を行うことは、想像以上に苦労の連続でした。しかし、ほとんどの職員が最後まで就業し、農業の喜びも感じたようです。生産農家にも歓迎されており、田イモ畑保全にもきっと良い影響があると考えています。



《 田イモの収穫が楽しみ 》